

保健衛生施設

施設概要

◇火葬場

墓地、埋葬等に関する法律に基づく火葬を行うための施設として整備され、築後54年を経過していますが、火葬炉の大規模改修等により10年程度の延命化が図られています。

◇環境保全センター

市内の家庭や事業所から排出される一般廃棄物やし尿の処理を行う施設として整備され、焼却処理や資源としての選別・回収等を行っています。

◇楠清掃センター

旧楠町のごみ処理施設として整備され、現在は楠地区のごみの収集運搬の中継施設として機能しています。

◇環境保全センター（車両整備工場、ストックヤード）

公用車の点検・修理及びペットボトルの圧縮梱包成型品作成に関する業務を行う施設として設置しています。

◇保健センター

市民の健康の保持及び増進を図るため保健施設として設置され、成人を対象とした健康づくり講座やがん検診などの総合集団検診、幼児等の健診などを実施しています。

◇休日・夜間救急診療所

夜間、休日等において救急医療を必要とする市民に対し、応急的な診療を行う診療所として設置しています。

◇排水処理施設

農村環境の向上と水源の水質の維持を目的として整備され、各地区の汚水処理をしています。

令和2年4月1日現在の施設概要

施設名称	地区	建築年度	築年数	構造	耐震化		延床面積 (㎡)	運営	防災 施設
					診断	改修			
火葬場	川上	昭和40年度	54年	R C	未	未	1,076.82	委	非該当
環境保全センター（車輛整備工場）	見初	昭和53年度	41年	S	未	未	286.34	直	非該当
環境保全センター（ストックヤード）	見初	昭和63年度	31年	S	不要	不要	275.22	委	非該当
し尿処理施設	見初	昭和60年度	34年	R C	不要	不要	1,950.48	直	非該当
ごみ処理施設	見初	平成14年度	17年	S	不要	不要	19,122.67	直	非該当
リサイクルプラザ	見初	平成6年度	25年	R C	不要	不要	5,659.38	委	非該当
容器包装ごみ処理施設	見初	平成12年度	19年	S	不要	不要	760.38	委	非該当
楠清掃センター	船木	平成14年度	17年	S	不要	不要	863.63	直	非該当

施設名称	地区	建築年度	築年数	構造	耐震化		延床面積 (㎡)	運営	防災 施設
					診断	改修			
保健センター	琴芝	昭和55年度	39年	R C	未	未	1,436.42	直	非該当
休日・夜間救急診療所	琴芝	平成10年度	21年	S	不要	不要	620.61	直	非該当
下小野地区クリーンセンター	小野	平成8年度	23年	R C	不要	不要	261.35	委	非該当
吉部排水処理場	吉部	平成15年度	16年	R C	不要	不要	238.31	委	非該当

※RC・・・鉄筋コンクリート造、S・・・鉄骨造、CB・・・コンクリートブロック造、W・・・木造

【備考】

- 建築年度、築年数、構造、耐震化は、主たる建物の状況を記載しています。
- 耐震化について、昭和57年以降の建築物（新耐震基準）、耐震診断により新耐震基準を満たしていることが判明した建築物は、「不要」と記載しています。
- 運営について、直営は「直」、指定管理は「指」、委託（指定管理を除く。）は「委」と記載しています。
- 防災施設について、災害時に避難所、緊急避難場所、防災拠点として使用される施設は、「該当」と記載しています。

施設評価及び今後の方向性

担当課	1次評価（定量評価）					2次評価（定性評価）					
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
生活衛生課	-	-	-	A	3点	1点					
火葬場	評価結果の分析					評価結果の分析					
	火葬炉の大規模改修を始め、屋上防水修理や多目的トイレの改修等を実施したことで、今後、当面10年程度の施設の延命化が図られたと見込んでいる。 しかし、築後54年を経過して経年劣化が進んでおり、延命化後は施設の更新が必要である。					火葬場は、公衆衛生上必要不可欠な施設であり、市民ニーズや高齢社会を見据えた施設整備が必要となっている。また、広域連携を視野に入れた火葬場建設については、山陽小野田市単独の斎場が建設されたことにより困難となっている。					
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性					建物の方向性					
	現状維持					更新					
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円）
											406,385
	説 明										
	昭和40年度に建設され、築後54年を経過しているため、火葬炉の大規模改修を始め、屋上防水修理や多目的トイレの改修等を実施したことで、今後、当面10年程度の延命化が図られたと見込んでいる。 効率的な建設・運営管理の手法も取り入れ、令和10年度を目途に更新する。										
担当課	1次評価（定量評価）					2次評価（定性評価）					
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
廃棄物対策課	-	-	-	C	3点	2点					
環境保全センター (車輛整備工場)	評価結果の分析					評価結果の分析					
	建物は老朽化が進んでいるが、整備工場としては支障はない。					ごみ収集車を多数所有しており、整備工場での毎日の点検整備は必須であり、応急処置や小修繕は民間への修理依頼では時間及びコストの面から不利であるため現状維持が妥当である。今後、ごみ収集の民間委託が進めば整備業務の民間移管が可能である。					
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性					建物の方向性					
	廃止					解体					
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円）
											17,180
	説 明										
	昭和53年度に建設された築後41年が経過する耐震性のない施設で、車両整備に関する業務を行っている。 今後、ごみ収集の民間委託を進めることによる車両数の減少に合わせて、整備業務を民間委託へ切り替えた後、施設を廃止し、解体する。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
廃棄物対策課	—	—	—	A	3点	2点					
環境保全センター (ストックヤード)	評価結果の分析				評価結果の分析						
	建物老朽が進んでいるが、ストックヤードとしては支障はなく、小規模な修繕・保守点検を実施することで継続使用が可能である。				「容器包装リサイクル法」による、廃棄物の適正処理及び資源の有効な利用の確保のためペットボトルの圧縮梱包施設を設置し、運転管理は業務委託。圧縮梱包機能等を保有する民間施設への移管は可能だが、コスト比較から現行が有利である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 0
	説明										
	昭和63年度に建設された築後31年が経過する耐震性を有する施設で、ペットボトル圧縮梱包に関する業務を行っている。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
環境保全センター施設課	—	—	—	C	4点	0点					
し尿処理施設	評価結果の分析				評価結果の分析						
	新耐震基準で建築され、築後34年が経過し、経年劣化が進行している。特に外壁及び支柱内の鉄筋腐食によるクラック、雨漏り等が多く見受けられ、修繕が頻繁に発生している。				廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき建設された一般廃棄物処理施設であり、一般廃棄物の処理は地方自治体の責務であり、施設の必要性は高いと考えられる。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 77,000
	説明										
	昭和60年度に建設され、築後34年が経過する耐震性を有する施設である。 設置場所が海岸の側であり、潮風にさらされることで、外壁及び支柱内のクラックによる鉄筋露出、屋内の雨漏り等が発生している。今後、令和3年度から4か年で計画的に補修を行う。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
環境保全センター施設課	—	—	—	A	4点	0点					
ごみ処理施設	評価結果の分析				評価結果の分析						
	現在稼働中のじんかい焼却場は、新耐震基準で建築され、築後17年が経過し、経年劣化は見受けられるが、小規模な補修で現状維持が可能である。 なお、流動床ガス化溶融炉も既に17年が経過し、各種機械設備類の老朽化が進行している。				一般廃棄物の処理は地方自治体の責務であり、施設の必要性は高いと考えられる。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	平成14年度に建設され、築後17年が経過した耐震性を有する施設である。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。 なお、基幹的設備については令和2年度から令和5年度で大規模改修を行い、その後約10年の延命化を図ることとしている。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
環境保全センター施設課	—	—	—	A	3点	2点					
リサイクルプラザ	評価結果の分析				評価結果の分析						
	新耐震基準で建築され、築後25年が経過し、経年劣化が見受けられるが、小規模な補修で現状維持が可能である。 なお、大型ごみ処理設備は金属刃の摩耗が激しいが、年次的な計画に基づき維持補修を行うことで継続使用が可能である。				廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき建設された一般廃棄物処理施設である。 民間施設への委託の可能性もあるが、一般廃棄物の処理は地方自治体の責務であり、施設の必要性は高いと考えられる。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	平成6年度に建設され、築後25年が経過した耐震性を有する施設である。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
環境保全センター施設課	—	—	—	A	3点	2点					
容器包装ごみ処理施設	評価結果の分析				評価結果の分析						
	新耐震基準で建築され、築後19年が経過しているが、小規模修繕を行いながら現状維持が可能である。 なお、圧縮梱包機等のごみ処理機械は経年劣化が見られるため定期的な保守点検整備を実施することで継続使用が可能である。				容器包装リサイクル法による、廃棄物の適正処理及び資源の有効な利用の確保のため圧縮梱包施設を設置している。 民間施設に委託することは可能であるが、コスト比較から行政で行う方が有利である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 0
	説明										
	平成12年度に建設され、築後19年が経過した耐震性を有する施設である。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
環境保全センター施設課	—	—	—	A	3点	0点					
楠清掃センター	評価結果の分析				評価結果の分析						
	本施設の中継施設は、新耐震基準で建築され、17年が経過し、建物の劣化も見られるが、小規模な補修で現状維持が可能である。				一般廃棄物の処理は地方自治体の責務であり、施設の必要性は高いと考えられる。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 0
	説明										
	平成14年度に建設され、築後17年が経過した耐震性を有する施設である。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
健康増進課	—	—	—	C	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
保健センター	建築後39年が経過しており、耐震診断は未実施である。近年、エアコン・トイレの水回りなどの設備修繕を頻繁に行っており、外壁も目視ではあるが、相当の老朽化が進行している。維持するためには、大規模な修繕が必要と思われる。				健康診査等の様々な健康施策等を実施する中核施設であり、市民の健康の保持及び増進を図ることを目的としている。健康づくりの中核拠点として機能は必要である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				耐震診断						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	6,000
	説明										
昭和55年に建設され、築後39年が経過した施設である。健康づくり講座やがん検診などの総合集団検診、健康相談、保健指導、栄養相談及び幼児等の健康診査などを実施する施設として機能している。耐震診断未実施のため、耐震診断を実施する。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
健康増進課	—	—	—	A	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
休日・夜間救急診療所	現在のところ修繕の必要性は低いと思われるものの残存耐用年数も10年未満であることから、小修繕を行いながら現状を維持する必要がある。				休日・夜間に、安心・安全な医療を提供しており、設置目的を有効に果たすとともに、施策の目的の達成に寄与している。現在、市が1次救急医療機関として設置・運営している。民間移管の可能性はあるもののその実現は極めて低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
平成10年に建設され、耐震性を有する施設であり、夜間、休日等において救急医療を必要とする市民に対し、応急的な診療を行う診療所として機能している。日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
農林振興課	—	—	—	A	4点	0点					
下小野地区 クリーンセンター	評価結果の分析				評価結果の分析						
	平成8年度に建設され、耐震性を有しており、健全な状態である。				宇部市の水源地である小野湖の水質向上を図るため条例により設置され、下小野地区の排水処理を担い、水質汚濁防止法の基準値を遵守し、浄化槽法に基づいた維持管理を行っている。その機能の性質や地域性から、代替の可能性は低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	平成8年度に建設され、築後23年が経過した耐震性を有する施設であり、宇部市の水源地である小野湖の水質向上を図り、下小野地区の排水処理を担う施設として機能している。				日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。						

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
農林振興課	—	—	—	A	4点	0点					
吉部排水処理場	評価結果の分析				評価結果の分析						
	平成15年度に建設され、耐震性を有しており、健全な状態である				宇部市の水源地である小野湖の水質向上を図るため、水質汚濁防止法の規制に基づき、吉部地区の排水処理を担い、浄化槽法に基づいた維持管理を行っている。その機能の性質や地域性から、代替の可能性は低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	平成15年度に建設され、築後16年が経過した耐震性を有する施設であり、宇部市の水源地である小野湖の水質向上を図り、吉部地区の排水処理を担う施設として機能している。				日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。						